第１学年　算　数　科　学　習　指　導　案
日　時　　平成３０年７月６日（金）　第５校時　１３時４５分～１４時３０分
単元名　　ひきざん（１）
学習者　　第１学年　７名
指導者　　寺本　加代
育成を目指す資質・能力
【知識・技能】**【課題発見解決力】**【思考力・判断力・表現力】【協働的な態度評価力】

1　単元について

○　本単元は，算数科学習指導要領第１学年Ａ数と計算（２）加法，減法

（２）加法及び減法の意味について理解し，それらを用いることができるようにする。 ア　加法及び減法が用いられる場合について知ること。 イ　１位数と１位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え，それらの計算が確実にできること。

を受けて設定されたものである。

前単元のＡ(1)「かずとすうじ」でものとものとを対応させることによって，ものの個数を比べるなどの活動から始まり，その個数を正しく数えたり，数えたものの個数を数字で表わしたりできるようになっている。

本単元では，具体的な事柄について加法や減法が用いられる場合や，加法や減法の意味について理解し，計算が確実にできるようにするとともに生活や学習の中で活用できることをねらいとしている。

本単元で育成を目指す資質・能力に関しては，小単元のはじめに，「問い」を持たせる活動を行い，「問い」を各時間の学習課題に生かしていくことや単元の終末にパフォーマンス課題として「絵本作り」を位置づけることによって，課題発見解決力を身につけることができると考えた。また，具体物や数図ブロックを用いた活動をさせながら説明を行わせることで，計算の意味を考えることで，思考力・判断力・表現力を身につけることができると考えた。

○　本学級の児童は，授業において意欲的に取り組むことができ，学習への興味・関心は高い。前単元の「たしざん」の学習では，「さんすうのえほんをつくろう」と呼びかけ，お話作りから始めた。お話作りでは，「ふえる」お話・「へる」お話を作り，意欲的にお話を作り，数図ブロックを使って，「ふえる」お話として，たし算の式を話すことができた。絵と数図ブロック・式，お話を関連付けながらたし算の意味をほとんどの児童が理解できた。計算については，数図ブロックやブロック図を一つずつ数えないと答えを見つける児童がまだ３人いる。

○　指導にあたっては，単元の導入時の【課題の設定】に「個数の減る・異なる」絵を提示し，「たし算」とは違うことに気づく活動を通して，「のこり」「～よりおおい」「ちがい」というキーワードを見つけ，次時以降の求残，求差の学習につなげていきたい。【情報の収集】【整理・分析】では，求残，求差の学習を数図ブロックの操作と論述ツールを対応させながら，操作を言葉で表現させ，式につなげ，ひき算の意味を理解させたい。また，昆虫や食べ物等，問題の素材を身近なものにすることで，興味を持って解決しようとする課題解決的な学習にしたい。【まとめ・創造・表現】，【実行】では，自作問題と数図ブロック，論述ツール，式，

答えを内容とした「ひきざんえほん」を作成させ，友達同士で「読み聞かせの会」を行い，相互評価させ，【振り返り】では，おうちの人に絵本を読んで感想を書いてもらうことで，新たな絵本作りへとつなげていきたい。

２　単元の目標

ひき算が用いられる場合を知り，ひき算の記号や式のよみ方，かき方を理解する。

（１０以下の数）－（１位数）のひき算ができる。

３　単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
・減法の計算に親しみを持ち，減法を進んで用いようとしている。 ・「えほんづくり」を進んでしようとしている。(課題発見・解決力)	・減法（求残，求部分，求差の場合）を同じひき算の計算の仕方と考えている。（思考力・判断力・表現力）	・求残，求部分，求差の場合を数図ブロックで操作し，ひき算の式に表して答えを求めることができる。	・ひき算が用いられる場合や，ひき算の記号や式のよみ方，かき方を理解している。

○　育成する資質・能力に関する視点

この単元では，【ひきざんえほんをつくろう】と課題を与え，解決しようとする意欲を持たせ，課題発見・解決力と思考力・判断力・表現力をつけていきたい。そして，具体物や数図ブロックを動かし，その活動をことばにし，式に表す活動を通して，知識・技能をつけていきたい。また，具体物や数図ブロックを動かす操作をことばで友達に話すことを通して，協働的な態度を育てたい。

４　指導計画（全１２時間）

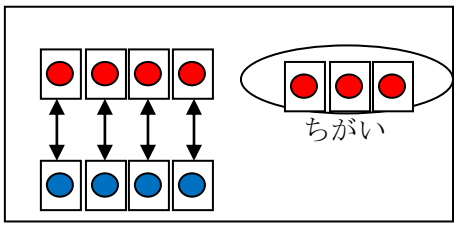
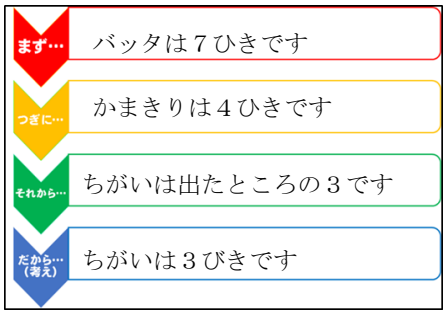
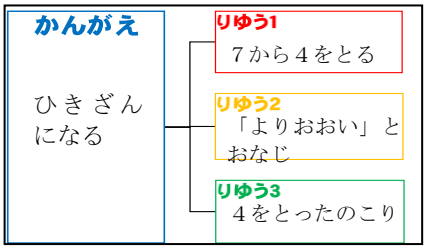
次	時	主な学習内容	観点				評価規準	評価方法
			関	考	技	知		
一	1	【課題設定】 ・「ひきざんえほん」を見て，興味を持つ。 ・問題絵を見て，問いを持つ。「のこり」「～よりおおい」「ちがい」	○				・「ひきざんえほん」を見て，これからの学習に意欲を持って取り組もうとしている。 ・問題絵から既習のたし算との違いを見つけたり，求残・求部分，求差の考え方に気付いている。	発言 観察
二	2	【情報の収集】【整理・分析】 ・「残りの数を求める」場面を数図ブロックの操作する。				○	・数図ブロックを操作し，「残りの数を求める」場面を理解している。	発言 観察

	3	・ひき算の式を知り，式をかいて答えを求める。			○		・ひき算の式を知り，ひき算の式にかいて答えを求めることができる。	ノート 発言
	4	・ひき算の場面（求部分）の拡張と計算練習をする。		○			・数図ブロックを操作し，「部分の数を求める」場面をひき算になることを考えることができる。	ノート 発言
	5	・数図ブロックを操作し，ひき算（求差）をする。				○	・数図ブロックを操作し，「ちがいを求める」場面を理解している。	ノート 発言 観察
	6	・「いくつ多いかを求める」場面でも，ひき算の式にかいて答えを求める。		○			・「いくつ多いかを求める」場面でも，ひき算になることを考えることができる。	ノート 発言 観察
	7	・「ちがいを求める」場面でも，ひき算の式にかいて答えを求める。 （本時）		○			・「ちがいを求める」場面でも，ひき算になることを考えることができる。	ノート 発言
	8 9	・計算カードによるひき算練習をする。			○		・ひき算のカードを使って，ひき算について習熟する。	観察
三	10 11	【まとめ・創造・表現】,【実行】 ・具体的な場面を式に表し，絵本を作る。 ・友達同士で「読み聞かせの会」をする。	○				・具体的な場面をひき算の式に表すことや，逆にひき算の式から進んで具体的な場面の問題をつくろうとしている。 ・友達に「ひき算絵本」を読み聞かせ，良い所を言い合おうとしている。	絵本 発言 観察
四	12	【振り返り】 ・ふくしゅう			○		・学習内容を確実に身につける。	ワークシート

5　学習活動

(1)　本時の目標

数図ブロックを操作し，「ちがいを求める」場面がひき算になることを説明できる。

学習活動	指導上の留意点と☆評価規準
1　問題①を知る。 ばった７ひき かまきり４ひき かずのちがいは いくつですか。	・前時は「なんこおおいか」を考えたことを想起させる。 ・既習と違うところは「ちがい」を考えることを知らせる。 ・学習活動全体を示す。（自分で考え，みんなで考え，まとめをすること） ・何を使って考えるか考えさせる。
2　今日の課題を確認する。 め　「ちがい」をかんがえるときは，どんな　しきに　なるか　はなそう。	
3　数図ブロックを動かして，式を考える。 ①　数図ブロックを置いてちがいを見つける。   	・本時のまとめを示しておく。 「ちがい」をかんがえるときの しきは ・数図ブロックを操作しながら説明させる。 ・数図ブロックをどのように動かしたか，実際に動かして話させる。 ・聞いたとおりに，数図ブロックを動かさせる。 （話す・聞く） ・リレー発表によって，教師用の数図ブロックを使って友達に自分の考えを話させる。 ・友達の考えを児童全員に机の上で数図ブロックを動かせて話させていく。
②　「ちがい」はどんな式になるか，数図ブロックを動かしながら説明する。  	・なぜなにチャートによって，式の説明をさせる。 ・速くできた児童には，数図ブロックやひき算の式をノートに書かせる。なぜ７－４になるのかわけを聞いてノートに書かせる。 ・数図ブロックを動かして，式が分からない児童には，数図ブロックの絵のヒントカードを渡し，違いはどこで，増えているのか減っているのか考えさせる吹き出しのかいたヒントカードを用意す

	る。
4　本時のまとめをする。 ちがいをけいさんするときは， （　　）ざんでする。 5　ふりかえりをする。	めざす児童の発言 ・しきは７－４＝３になります。 わけは，ちがいはばった７こから４こをとったら３こになるから ・しきは，７－４＝３です。 わけは，よりおおいのときと同じだからです。 ・しきは７－４＝３です。 わけは，ばった７ことかまきり４こを線を引いて残ったところの３がちがいだからです。 ☆数図ブロックを取ったら，答えが分かることからひき算になることを話すことができる。 （ノート，発表） ・数図ブロックをどのように動かしたら，答えが分かったか思い出させ，どんな式になったかをノートにまとめさせる。

（3）　板書計画

７／６（金）

め　ちがいをかんがえるときは，
どんな　しきに　なるか　はなそう。

も　絵
かずのちがいはなんこですか

みんなで

じぶんで

７こから

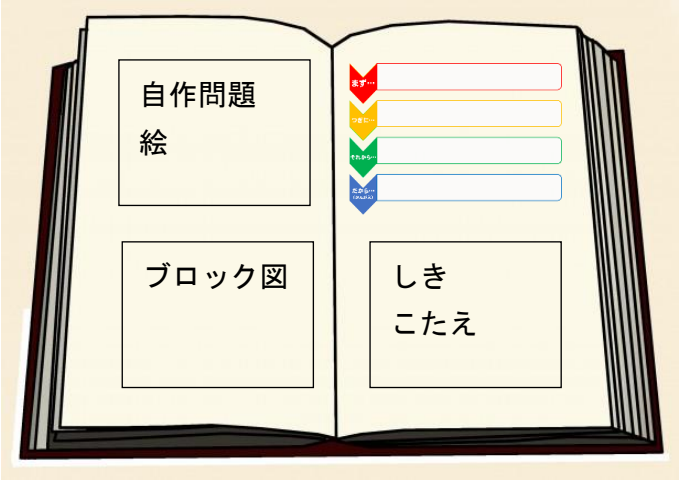
４ことったら
ちがいは３こ

ま　ちがいをけいさんするときは
しきは（ひき）ざんに　なる。

はじめ　７こ
つぎに　４こ
ちがいが　３になる

しき　７－４＝３
こたえ　３こ

絵本のイメージ



※　単元で育成を目指す資質・能力に係る児童生徒の変容

○　資質・能力に係る単元前の児童の実態

本学級の児童は，課題を見つけることは，初めてであった。

授業では，自分の考えを表現するとき，なかなか言葉が出てこないことが多く，発表することに慣れていなかった。

○　単元での具体的な手立て

児童が知的好奇心を高め，主体的に学習に取り組むために，単元構成の工夫，単元のゴールの明確化，そのゴールに向けたキーワードとなる「問い」づくりを行う。

考えたり，まとめたりするときのツールとして論述ツールのステップチャートを毎時間用い，論理的に自分の考えを話すことに慣れさせる。

○　児童の変容

取り組みの結果，考えたり，まとめたりするときのツールとして論述ツールを用いて，立式の理由を２つ付けたり，計算の仕方を論理的に説明したりできるようになった。この単元を通して，論理的に説明すること，根拠を付けて意見を言うことができるようになった。